

KT師重賞本命と見解 2021.11.14

福島記念

前走 G2 以上の格上馬がとても有利なレース。

特にここ数年は傾向が顕著。2016 年以降は単勝 10 倍以内に支持された前走

G2 以上組は 9 頭出走して 8 頭が複勝圏内に。

本命はステイフーリッシュ。

過去 5 年、前記のパターンで勝利した 5 頭のうち 3 頭はステイゴールド系。

すべてノーザンテースト持ち。

— 昨年 の 2 着馬。

土曜のエアスピネルもそうだったように、ノーザンテーストの血を持つ馬は高齢でも得意レースは何度も走る特徴も。

エリザバス女王杯

芝 2200m 重賞は海外馬や日本の主流種牡馬ではない産駒。

400m で割れない距離での実績(1800、2200、2500m 実績馬)が走りやすいレース。

昨年は海外 G1 実績馬が 1、3 着。2 着馬は有馬記念でも 2 着。

本命はウインマリリン。

先に書いたように昨年は、日本の根幹距離以外でも超 G1 級の馬が 1-3 着。

昨年と同じだけ走っても今年は馬券圏内に入れそうなメンバーですが、
同馬はキャリアを重ねて上昇するスクリーンヒーロー産駒。

同種牡馬の産駒は、2、3 歳時の出走数と 4 歳以降での重賞出走数はほぼ同じ。

それでいて 4 歳での重賞勝利が全体の 40% 近くを占めるのですから、

キャリアを重ねて上昇する傾向の種牡馬。同種牡馬の産駒にゴールドアクター。

G1 勝利は有馬記念。重賞勝利 4 勝はすべて非根幹距離。

ウインキートスは父がゴールドシップ。

母父はボストンハーバー。

同じ母父を持つステイゴールド産駒の

クロコスミアもエリザベス女王杯を3年連続で連対。

父ゴールドシップは今年のエリザベス女王杯と同じコースの宝塚記念を2勝。

同じく400mで割れない非根幹距離の有馬記念も優勝。

ウインキートスも5勝すべてが400mで割れない距離。

非根幹距離適性に長けた血統。